

勅願所

山城国乙訓郡立願山

楊谷寺略縁起

夫当寺者、人皇五十一代平城天皇の御宇、大同元年秋円(延)鎮僧都創草(マコ)の地なり。本尊千手千眼觀世音菩薩ハ、春日大明神の御作と云ひ、或ハ化人の作といふ、抑濫觴を尋るに、円鎮洛東有し時、夢中に化人来て告玉て、遙に西山に入、生身の觀世音菩薩を拜したもふ見て夢覺ぬ、翌鳥(惣)彼地に至るに、柳に満谷円鎮道をわきまへす、時に老翁頭シ昨夜告し地なり、急き彼尊を拝すへしと指て失ぬ、円鎮きひ(奇)異の思ひをなして、教のことくりうしを分けて岩上を見玉へハ、不思議なるかな此尊像巍々として在す、夢相に違ひなく、我所願成就して此補陀落山入しめ玉りと悦ひ、仏閣を建立し、此尊像を安置し玉へり、其後五十二代嵯峨天皇弘仁年中、弘法師この山に入て女人の高野と定、十三仏の石像を刻ミ溪谷に安す、今に伝へり、泉病悉除のために香水を府し玉へり、其外金胎両部石・独鈷石・楊柳の闕伽井種々の法砌多し、又六十六代一条院長保年中に恵心僧都此山に入玉ひ、欣水(水)浄土の修行ハ此地なりと石上に念仏三昧す、色々の菩薩常に來迎有けれハ歡喜の余り、所も無格の浄土谷に名付玉ひ、末世有縁のために万三札丈六の弥陀の尊像を刻み、別院に安す、今現浄土谷に在す、又七十二代白川院勅命に依之水願上人七堂伽らんを建立す、又七十六代近衛院久安年中沙門行西法師再興有しに立岩山清水寺の勅額を玉り、然に盛衰世の常にして、地震兵乱に仏閣を破壊す、雖然本尊の聖相円満して寄(寄)瑞多かりき、然に光陰うつりて慶長の頃に向ニたり、時に宝(考)室志筈法師当山に登り、七間四面の仏閣を建立し玉り、今の本堂是なり、代々の 帝勅願所として御信仰御代参有之、中にも百拾三代東山院・靈元院兩帝御信心他に殊して、御不例の時者寺主量空是海上人に勅して御祈願あり、本尊を御願を

御所に移奉而御悩たちまち御平癒まします、其時本尊荊唐戸其外宝物御寄附也、又新崇賢門院御信仰御宿願

子細ありて

中御門院、是海に勅して千手観音の御光の中に西国三十三所の霊像を刻しめあひし給ひ、一字を御建立

今の護摩堂是なり、累月の

御代参御撫物、御祈祷懈怠事なく

御信仰世にことなり、しかれハ本尊利生

不虛阿況や十方四民渴仰の

輩ハ現世にてハ横病横死横難を

まぬかれ、当来にてハ補陀落山に

往詣するとかや

宝暦十庚辰年四月

権大納言(鷲尾)隆瀬書之